

寺尾会員、渡邊会員、井上勇会員、安藤志子会員、安藤登会員、安藤亨会員、鈴木会員、内藤会員、鴨志田会員、中島健児会員、田内会員、佐藤会員、中島眞一会員、高橋会員、山口福枝会員、松井会員、小塚会員、碓井会員、服部会員。

<出席委員会> 井上勇委員長

	会員	出席	欠席	メイク	出席率
第1466回	44※	33	11		75.00%
第1465回	44※	34	10	4	86.36%

*出席免除会員1

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	30件	35,000円	450件	527,000円
財団	0件	0円	23件	236,000円
ベネファクター	0件	0円	2件	216,000円
米山	0件	0円	10件	86,000円

<雑誌委員会> 小塚委員長

「ロータリーの友」誌のアンケート結果が届いています。「ロータリーの友」が、どのように扱われ、どのように読まれているかご覧になってください。

R Iの規則に、「雑誌をよく読む」とあります。雑誌を読む事は義務であり、読む事によって会員の自覚を高める事につながります。雑誌の発行部数は、1997～98年頃は170万部、現在は会員減少などの理由から128万部の発行と大幅に減っています。また、一誌あたりのコストは、コンピュータ化などで合理化が進み、日本は世界で一番安く1部200円、インドでは800円との事です。

各クラブにおきまして、雑誌委員長が率先して理解し、会員の記事の投稿などで積極的に参加する事がクラブの活性化につながります。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



本日のプログラム

<招聘卓話>

米山奨学地区委員長の鈴木憲治様より、米山奨学事業の卓話がありました。

なぜ留学生支援なのか？

「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか！」という事です。

「米山基金」が全国ロータリークラブでの合同事業として広がり、現在では規模と実績ともに、日本の民間奨学財団では最大規模となりました。また、2004年11月のR I理事会では、日本の全地区が参加する「多地区合同奉仕活動」であることが、新たに認証されました。米山奨学には4つの事業があります。

- 1.国際青少年交換は、高校生の国際理解と親善を推進。地区対外国地区との派遣と受け入れです。
 - 2.国際親善奨学金は、他国の教育機関で勉学し、友好関係の増進と理解の派遣です。
 - 3.ロータリー世界平和フェローシップは、紛争解決に関する研究をするための奨学金で、派遣と受け入れです。
 - 4.米山記念奨学金は、日本で学ぶ私費外国人留学生に対し、ロータリアンの寄付金によって奨学金を支給し支援する、日本のロータリー独自の国際奨学金制度で、受け入れです。
- 元米山奨学生の多くの方がロータリアンとなり、現在各国で大変すばらしい活躍をしています。「理解と感動を通して、米山奨学事業への支援の文化を築こう」がテーマです。皆さまのご寄付が奨学金となって、世界で活躍する人材を育てています。ご協力をお願いいたします。

